

# アクセシビリティにおける 車いすユーザーと学生の合理的配慮への意識について

○阿部 詩織  
(新潟県立高田特別支援学校)  
KEY WORDS : 車いすユーザー

有川 宏幸  
(新潟大学教育学部)  
バス

## I. 問題と目的

本研究の目的は、アクセシビリティの中でも古くから論争になっていたバスの利用について、車いすユーザーと大学生の間のバスの利用に関する困難さの意識を明らかにすることである。

## II. 方法

質問紙の作成のため、予備調査として研究対象となるバスの調査、車いすユーザーへのヒアリング調査、大学生への自由記述式アンケート調査を行った。

対象となるバスの調査ではA市内の路線バスを運行するA交通に問い合わせたところ、最も多く使用されているバスはノンステップ床のバス(LV234N3)であることが判明した。図面をA交通より入手しA交通B営業所で対象のバスについて取材を行った。

また、A市内在住でバスを利用した経験のある車いすユーザーの男性2人にバスの利用で実際に困ったことや、要望などについてヒアリング調査を行った。

N大学の学生に対して、想定されたバスの情報をもとに自分が車いすユーザーだったら「どんなことに困ると思うか」、「バスの利用時に困っていたら周りの人にどのように接してほしいか」の2つの質問に対して自由記述式のアンケートを行った。アンケートには回答者が同じバスを想起できるようにバスの情報を添付した。アンケートの結果でKJ法を行い、ヒアリング調査の結果とあわせて本調査で用いる18の質問項目で構成される調査用紙を作成した。

この調査用紙をN大学の学生350名に配布した。無記名式質問紙調査法を用いて回答してもらった。回収できた質問紙は345部で回収率は98%であった。なお、欠損値のあるデータを除外して分析を行った。そのため、データは314名について算出した。

## III. 結果

### 1. 因子分析について

18の質問項目のうち、天上効果の見られた4つの項目を削除し、残りの14項目について因子構造を検討するため、最尤法を用いてプロマックス回転を行った。因子数の決定は固有値1以上の基準を設けて検討した。ここで因子負荷が0.4に満たなかった4項目については削除した。因子分析の結果10の項目から4つの因子が抽出された(Table)。

### 2. 各因子と所属学部に関連について

学生の所属学部から主に対人実習のない人文学部・法学部・経済学部・理学部・工学部・農学部・自然科学研究科で構成される対人実習無し群と、対人実習がある教育学部・医学部・歯学部で構成される対人実習有り群にわけ、t検定を行った結果、「援助期待因子」において対人実習有り群の平均値の方が有意に高かった( $t=-2.05323$ ,  $df=312$ ,  $P<0.05$ )。

### 3. 車いすユーザーへのヒアリング調査

車いすユーザーからは、実際のバスの利用に関して「前後の座席の幅が狭いため方向転換がしにくい」、「スロープの傾斜ができるだけフラットな方が乗り降りがしやすい」、「事前にどのバスが車いす対応か分からない」といった意見があった。

## IV. 考察

車いすユーザーと大学生の間には困難さに対する意識のズレがある。大学生は障害者が実際にどんな支援を求めているかを理解しておらず、障害者に対する一方的な思い込みによる意識をもっている可能性がある。その思い込みが障害者本人と障害者を支援する側の意識のズレや、求める支援と提供する支援のズレにつながっていると考えられる。障害者本人の声を聴き、障害者と健常者が同じ認識・意識をもったうえで支援や設備などを改善していく必要がある。

(ABE Shiori, ARIKAWA Hiroyuki)

Table 自分自身が車いすユーザーだとしたらどのような考えをもっているか

質問項目	因子1	因子2	因子3	因子4
	過干渉拒否	援助期待	周囲への気がかり	援助要求
<b>第1因子：過干渉拒否</b>				
車いすユーザーだからと言って過度にかかわらないでほしい	<b>1.029</b>	.077	-.017	-.075
お願いしたときのみ手伝ってほしい	<b>.393</b>	-.216	.020	.192
<b>第2因子：援助期待</b>				
乗り降りのときに、何も言わなくとも手伝ってほしい	.000	<b>.666</b>	-.024	-.137
車いすからバスの座席に移るときに手伝ってほしい	-.011	<b>.626</b>	.031	.121
車いすをバスにあるベルトで固定する手伝いをしてほしい	.032	<b>.521</b>	-.008	.128
<b>第3因子：周囲への気がかり</b>				
混んでいるときに、車いすでバスに乗ることは他の乗客の邪魔になる	.007	.021	<b>.920</b>	.021
乗り降りや移動のときに、時間がかかることで他の乗客の迷惑になる	-.020	-.022	<b>.542</b>	-.060
<b>第4因子：援助要求</b>				
バスの中を移動するときに、車いすが移動できるようにスペースをあけてほしいと自分からお願ひすることができる	.020	-.052	-.040	<b>.615</b>
乗り降りのときに、自分から運転手に声をかけることができる	.050	.058	.034	<b>.611</b>
困ったときに、自分から他の乗客に声をかけ助けを求めることができる	-.090	.118	-.045	<b>.538</b>

因子抽出法：最尤法 回転法：Kaiserの正規化を伴うプロマックス法